



鳥取県教育センターだより

Tottori Prefectural Education Center News

〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201 【TEL】0857-28-2321（代表）【FAX】0857-28-8513
【URL】<https://www.pref.tottori.lg.jp/kyoikucenter/> 【e-mail】kyoikucenter@pref.tottori.lg.jp

県教育研究大会(兼GIGAスクールフェア・冬)を動画配信中



本年度の県教育研究大会(兼GIGAスクールフェア・冬)は2月上旬に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、特設サイトによる動画配信としました。**令和4年3月31日(木)まで配信**しておりますので、是非とも御視聴ください。

令和3年度鳥取県教育研究大会(兼GIGAスクールフェア・冬)
(目的)
GIGAスクール元年の令和3年度の推進結果を共有するとともに、
定着・充実へシフトする令和4年度以降の意識高揚を図るとともに、
授業改善につなげる機会とする。
(内容)
・開催挨拶 ・行政説明
・特別講演 鳥取県 ICT 活用教育アドバイザー 西田光昭氏
「GIGA スクール構想の次のステージ
～基礎的な活用から効果的な活用へ～」
・県教育センター長期研修生による研究発表
・パネルディスカッション
テーマ「鳥取県 GIGA 定着に向けて学校・教員はどうすべきか？」



特設サイト (Google サイトにて作成)

講演の中の文房具を使えるだけでは学力向上につながらないという言葉が印象的でした。ICTを活用する方法を見ることが学力の向上につながっていくのだと思いました。

動画視聴の感想より



1年目は「とにかく使ってみることに価値がある」というスタンスで実践してきたが、2年目はICTを活用した授業展開について強く意識して取り組んでいきたい。

特設サイト
はこちら

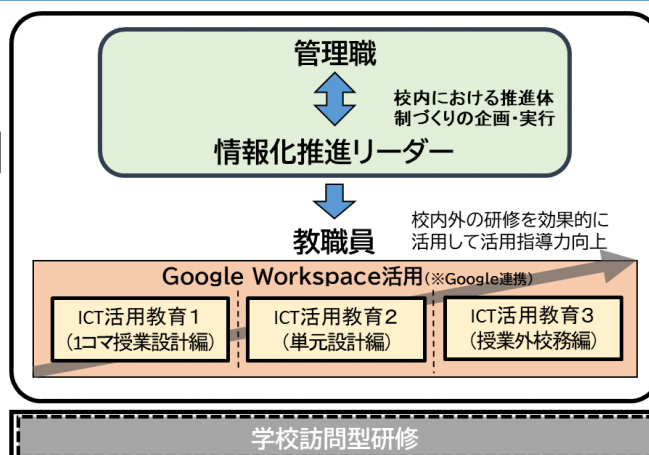


令和4年度 ICT活用指導力育成の取組について

令和4年度を「活用定着期」と位置づけ、ICTを活用した教育の日常化に向けて学校現場を支援するとともに、教育の質をさらに高めるため、ICTを応用した授業実践に向けた研修の充実をめざします。

令和4年度 教職員のICT活用指導力 育成の取組(一部抜粋)

- 教職員の活用指導力向上
- 初任者研修(ICT活用教育)
- ICT活用指導力向上研修
- 県内の次世代リーダー育成
 - ・長期研修生(ICT活用教育)
 - ・指導力向上ゼミナール(ICT活用教育)
 - ・鳥取PBL-Master Teacher養成講座



- 校内の推進体制充実
- 学校CIO研修 (悉皆)
- 情報化推進リーダー研修 (悉皆)
- 諸課題に関する内容
- 情報モラル教育
- プログラミング教育
- 特別支援教育(ICT活用)
- STEAM教育
- 高校 情報I

県立高等学校でBYADが始まります！

県立高等学校全日制課程では、令和4年度入学生から年次進行で、学校が指定する端末を私費購入していただき、1人1台端末の学習環境を実現していきます。

中学生配布
チラシは
こちら



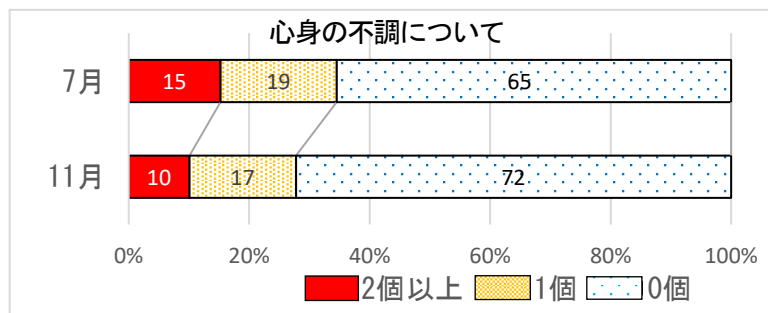
学び合い、育ち合い、高め合う組織づくり

ー第2回初任者アンケートからー

初任者の困り感や悩み等の現状を把握し、今後の研修等による適切なサポートにつなげるため、7月に続き11月に第2回アンケートを実施しました。各対象者、学校には御協力いただきありがとうございました。必要に応じて、結果を個別にお返ししましたが、全体の傾向について、本アンケート結果の一部を紹介します。

1 図1 「心身の不調について」

「最近1カ月の状態について、最もあてはまるものを選んでください。」という質問について、心身の不調（6項目）を以下のように選択した数の合計によって、2個以上、1個、0個の初任者に分け、7月（1回目）と11月（2回目）の割合を比較しました。

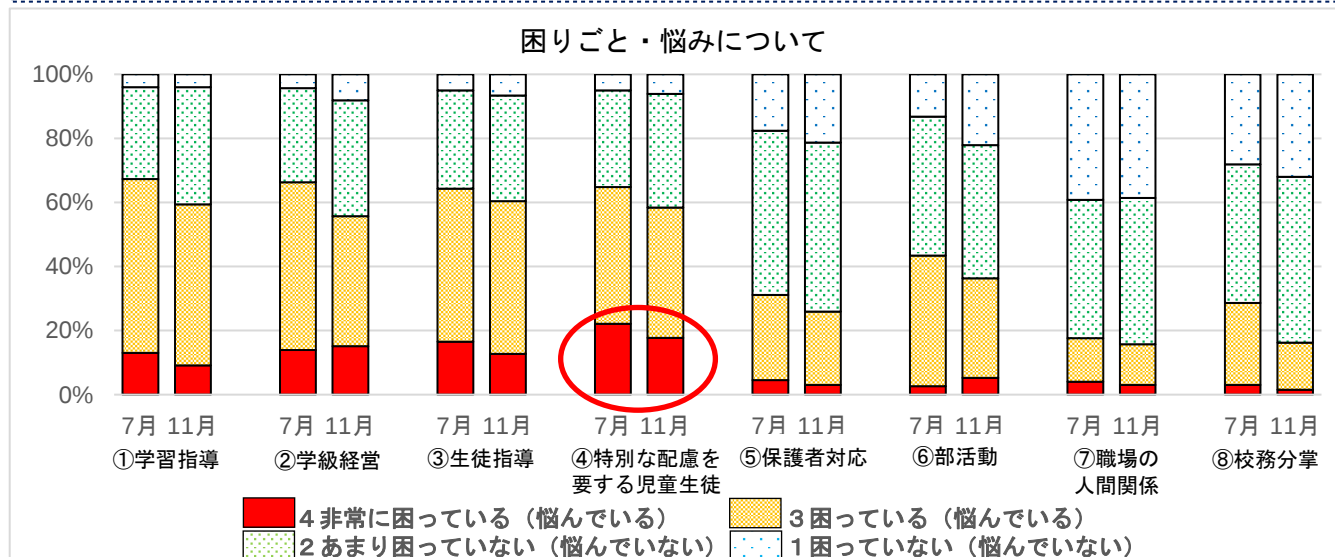


【心身の不調（6項目）】

- ① 元気だ
 - ② やる気がある
 - ③ 食欲がある
 - ④ よく眠れる
 - ⑤ 気ははりつめている
 - ⑥ ゆううつだ
- 「あてはまらない」（強い否定）を選択
 「あてまはる」（強い肯定）を選択

2 図2 「初任者（新規採用者を含む）の困りごと・悩み」

「現在、仕事に関することによって困っていることや悩んでいることはありますか。」という質問について、①から⑧の項目ごとに4つの選択肢の割合を7月（1回目）と11月（2回目）で比較しました。
 ※部活動の指導に関することについては中・高のみの割合



3 アンケート結果より

図1からは、7月に比べ、心身の強い不調がある（2個以上群、1個群）と回答した割合が減少し、心身の強い不調がない（0個群）と回答した割合が7%増加していることがわかり、改善傾向が見られました。図2からは、「4. 非常に困っている」「3. 困っている」と回答した割合は、ほとんどの項目で減少し、困り感が解消されつつあることがわかります。2つの図から、困り感が解消されつつあることで、心身の不調を訴える割合が減っていることが推測されます。

今年度最後の初任者研修アンケートで書いてもらった「来年度の初任者に向けてのメッセージ」を抜粋します。そこには、「何もかもが初めてで最初はしんどくて、大変なこともあると思いますが、周りの先生を頼り、感謝しながら頑張ってみてください。」「周りの先生の真似をしたり、教材を見せてもらったりしていくことで、自分のやり方が見つかると思います。」「初めは不安なことばかりですが、学び続けようという姿勢がある限り、きっと多くの人があたたかく支えてくれます。」等、この1年間諸先輩に支えられ、着実に成長したことがうかがえました。このように、校内での適切な具体的支援により、初任者の困り感が解消され心身の不調の改善につながります。今年度の初任者が来年度は後輩を支えつつ、ともに学びあい指導力を高めあう姿が学校組織の中で広がることを期待します。

また、「④特別な配慮を要する児童生徒に関すること」の項目は依然として困り感が大きいことがわかりました。特別な配慮を要する児童生徒の状態等に応じた指導を充実させるためには、学級担任が一人で抱えないよう、チームで対応することが大切です。集団指導において、一人一人の特性等に応じた配慮を行う際は、教職員の理解のあり方や指導の姿勢が、児童生徒に大きく影響することを十分理解し、困った行動は「児童生徒が困っている」という視点で対応していくことが必要となります。必要に応じて特別支援教育主任が中心となり、関係教職員のほか巡回相談員や外部の関係諸機関と連携していくことも重要です。

教育センターでも、若手教員を対象とした研修で、特別な配慮を要する児童生徒の指導に関する内容を今後も充実させていきたいと思っています。



「とっとり未来教師セミナー」での若手教員の活躍

～未来の教師に伝える熱い思い～



鳥取県で教員をめざす大学生を対象に、今年度は10月22日（金）と2月10日（木）に、「とっとり未来教師セミナー」をオンラインで実施しました。近畿、中国、四国、九州地方から、合計32名の参加がありました。参加者は、抱えていた不安を払拭したり、教師をめざす意欲を高めたりすることができたようです。

このセミナーでは、採用2年目、3年目の若手教員（両日で13名）が講師となり、「ちょっと先行く先輩の本音を聞きたい！」「めざす教師像に近づくための秘訣とは？」というタイトルでグループ協議を行いました。「授業の準備は大変だけど、子どもの『分かった』という言葉に元気をもらいやりがいを感じる。」

「うまくいかないことも多いけど、子どもとの関わりをとおして自分の成長を感じられることが魅力である。」等、先輩教師として後輩である大学生に向け、教師の魅力や生活、めざす教師像などを熱く語ったり、大学生の質問に丁寧に答えたりするなど、活躍する姿は頼もしいものでした。

また、グループ協議に向けて事前に準備したり、自分の経験等を語ったりするなかで、「教師をめざしていた頃を思い出すことができた。」「教師の仕事や教師の魅力などについて改めて考える機会となり、良い経験になった。」といった感想がありました。講師を務めてくださった若手教員のみなさんにも、役割をとおして学びを得たとの実感があつたようです。



「まずは、やってみよう！」

所長 小谷 洋子

『成功』の反対は？」と聞かれたら、なんと答えますか？多くの人は、『失敗』と答えると思います。しかしながら、この1年間、コロナ感染拡大防止の対策等で制約が強いられるなか、工夫を重ねながら新しい形でさまざまな教育活動を実施されている学校の様子をうかがうと、『成功』の反対は、『失敗』ではなく、『チャレンジしないこと』なのではないかと思えてきます。

特に、本年度から本格的にGIGAスクール構想がスタートし、学校では今まで以上に「まずは、やってみよう！」という気持ちで、ICT機器を活用した授業づくりに臨まれたことと思います。きっと、初めはICT機器の活用が思うようにできず、戸惑いや時には失敗もあつたのではないのでしょうか。

小説家であり詩人でもある武者小路実篤氏の「生長」という詩があります。

新しいことを試みるとき、初めから「どうせ自分にはできない」と、早々とあきらめてしまつたら、いつまでもできるようにはなりません。ひたすら前を向き、前進することで、いつの間にか楽に手がとどくようになっていたという経験をされたことがあると思います。失敗体験が成功体験に変わったとき、精神は一段と強くなり、人は大きく成長するものです。

何事も、得意なことばかりではありません。苦手なことや直ぐにできないこともたくさんあります。失敗することは決して悪いことではありません。何かに挑戦しなければ、失敗すらできないからです。ぜひとも、失敗を恐れず、まずはやってみよう！とどんどんチャレンジしてみましょう。そして、チャレンジしようとする人や困っている人を見かけたら、声をかけ、育ち合う組織にしていきましょう。

「生長」
どうしてもとどかなかつた枝に
ふと手をあげて見たら
楽にとどくようになった

